ほっとTタイム

地域で守る 市民の防災力

今回のほっとTタイムのテーマは「地域の防災」。新町地域の自主防災組織で活動する滝沢さん、女性防火クラブの樋口さん、市消防団の高橋さんと五十嵐さんを迎え、誰もが安心して生活できるまちを作るためにはどうすればいいか、それぞれの立場から語っていただきます。

市民が支える地域の防災活動

市長　高崎は「地震や風水害などの災害が少ないまち」というイメージがありますが、やはりいつ危険にさらされるか分かりません。行政だけでなく、一人一人が自分の身を守るという気持ちを強く持つことが大切だと思います。そういう意味で皆さんは地域ぐるみでいろいろな取り組みをされています。高橋さんは消防団に入って32年と聞きましたが、入団のきっかけは何ですか？

高橋　父の友人が消防団に入っていて、誘われたんです。活動をとおして地域にたくさんのつながりができました。30年はあっという間でしたね。

市長　五十嵐さんは？

五十嵐　うちは自営業ですが「地域で商売するからには、何か地域のためにしたい」という思いがあって。たまたまお客様の中に消防団の方がいて、声をかけられたのがきっかけでした。

市長　今は消防団に入る人を探すのが大変だと聞いています。若い人もそうですが、これからは女性がもっと消防団に参加できるような配慮が必要ですよね。樋口さんは女性防火クラブに参加されていますが、どんな活動をされていますか？

樋口　消火器の使い方や住宅用火災警報器の設置推進といった、家庭から火災を出さないための啓発活動が中心です。でも最近は集中豪雨や地震も多くなったので、もっと防災の意識を広めたいと考えています。

市長　防災活動が大事だというのは、誰もが感じていると思います。でも実際に活動に参加してもらうとなると難しい。

樋口　そうですね。クラブの役員には「まず自分の命を守れるようになることが防災の基本」と、活動の目的を説明して協力をお願いしています。実際に体験してみないと、いざというときに動けませんからね。

頼りになるのは隣近所の声かけ

市長　地域の取り組みでいうと、昨年行われた新町の避難訓練はすごかったですね。千人ぐらい参加されたんでしょう？

滝沢　はい。まちを挙げての訓練でした。以前、自分の町内で住宅火災があったときに、消し方が分からなくて見ているしかないという経験を味わいました。結局建物は全焼してしまって…。訓練はこれがきっかけで始めたんです。

市長　お年寄りから若いお母さん方まで、皆さん楽しそうに参加していましたよ。でも、実施にあたっては苦労もあったのではないですか？

滝沢　そうですね。まずは自分の町内でやってみようと、育成会や長寿会、民生委員さんなどと協力して何度か訓練をしたんです。それで実際にやってみたら「一つの町内だけで収まってしまったらもったいない」ということになりました。それで何度も会議を開いて各町内会と合同で避難訓練ができるように連絡を取りましたが、なかなか人が集まりませんでした。最終的には全世帯に案内文を配布して趣旨を伝えた上で、半ば強引に出てもらったんです（笑）。

災害時に支援が必要な人の避難も想定して行われた訓練（新町地域）

樋口　でもそれだけ参加してもらえればすごいですよね。

市長　それと、今一番重要なのは災害時に高齢者や障害のある人を誰が支えるかなんです。「隣のマンションの何号室に寝たきりの人がいる」と分かっていれば、いざというときに助けなければと思いますけど、なかなかそれが把握できない。

高橋　個人のプライバシーも関わってきますしね。

市長　個人情報であっても、本人の了承があれば活用できるんです。ただその了承を取るのを市が一律でするとなると難しい。だから皆さんのように、それぞれの地域で活動されている方と情報を共有できる仕組みをつくるにはどうすればいいかと考えているところです。

樋口　災害情報をどうやって伝えるかもそうですよね。

市長　市も安心ほっとメールやラジオ放送、防災無線などを利用した情報発信を行っていますが、全てをカバーできません。最後は一人一人の声かけが頼りです。いざというときに誰が隣の家のドアを叩いて「早く逃げなきゃだめだよ」っておんぶしてくれるかなんですよ。

地域に求められる防災力とは

市長　これまで防災活動をされてきた中で、もっとこうすればいいんじゃないかというのはありますか？

高橋　消防団は今、団員が不足しています。それに会社勤めの人が7割くらいなので、昼間に火事があっても人がいなくて出動が危ぶまれることがあります。勤務時間内でも出動できたり、同じ地域にある会社が防災活動に協力したりできる社会的な雰囲気がつくれるといいですね。それで参加してくれた会社を表彰するとか。会社のイメージアップにもつながると思います。

市長　なるほど。それはいいアイデアですね。消防団の活動に理解が得られるように、勤め先に伝えるだけでもずいぶん変わると思います。

五十嵐　若い人にも「何かしたい」という意識はあると思います。東日本大震災のときも被災地へボランティアに行く人がたくさんいました。そういう意識を地元の防災活動につなげてもらいたいと思います。行政からもそういったことを奨励していただければありがたいです。

樋口　私は地域のお祭りとか人が集まる場所で防災活動との接点を持ってもらうことが大事だと思います。実際に消火器を使ってみたり、起震車に乗ってみたり、気軽に体験してほしいですね。

滝沢　日頃の近所付き合いや町内の行事とかが全て地域の防災につながっていくんだと思います。

市長　地域での一人一人の助け合いが大事ですね。これからも皆さんの活動に期待しています。協力して地域の安全を守っていきましょう。本日はありがとうございました。

一同　ありがとうございました。

● **滝沢 之次（ゆきつぐ）さん**
新町の「地域災害対策会議」の会長を務める。新町全地域での避難訓練を実施。

● **樋口 啓子さん**
女性防火クラブの副会長。家庭からできる防災・防火の啓発活動を行っている。

● **富岡 賢治市長**
地域と協力して市民が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいる。

● **高橋 喜良（きよし）さん**
市消防団東部方面隊第1分団長。地域全体の防災意識向上を目指している。

● **五十嵐 栄（さかえ）さん**
高橋さんと同じ市消防団東部方面隊第1分団に所属。団歴10年。